

令和6年7月17日（水）

沖縄県保健医療介護部感染症対策課 感染症予防班

担 当：加藤、仁平

電 話：098-866-2013

夏休み中の野外活動で注意が必要なレプトスピラ症について

夏休みは外出する機会が増え、レジャーなど野外活動を行う方が多くなる時期です。レプトスピラ症に関して、県内では例年9月前後が最も多く、夏季から増え始めるためマスコミの皆様には感染予防策の県民への周知について、ご協力いただきますようお願いします。

1 レプトスピラ症について

病 原 体：病原性レプトスピラ（*Leptospira interrogans*）

感染症法では4類感染症に分類され、病原性レプトスピラという細菌の感染によって引き起こされる人獣共通感染症です。

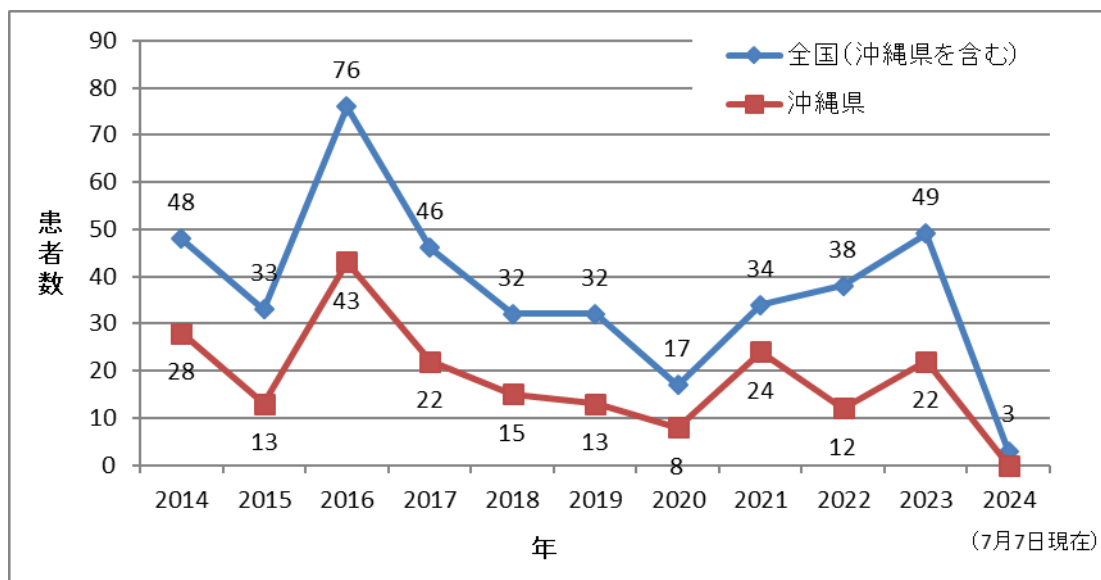
感染経路：病原性レプトスピラは、ネズミやマングースなど野生動物の腎臓に潜んでおり、尿中に菌が排せつされ、それにより汚染された土壌や河川の水と接触する際に、皮膚の傷、鼻や目の粘膜を通して感染します。ヒトからヒトへの感染はありません。

潜伏期間：3～14日

症 状：主な症状は頭痛、発熱（38℃以上）、筋肉痛・関節痛、結膜充血で、重症になると腎機能障害、黄疸などの症状が現れ、治療しないと死に至ることもあります。

治 療：ペニシリンやストレプトマイシンなどの抗生物質が有効とされています。

2 レプトスピラ症の患者発生状況



表：過去 10 年間の全国および県内の患者報告数（令和 6 年 7 月 7 日時点）

年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
全国	48	33	76	46	32	32	17	34	38	49	3
沖縄県	28	13	43	22	15	13	8	24	12	22	0

※全国患者数は、沖縄の患者数を含む。

県ではこれまで 2016 年 9 月、2023 年 9 月に集団発生事例の公表があります。また、2006 年、2022 年にはそれぞれ 1 名の死亡例の報告があります。

県内では、北部地域と八重山地域での発生が多く、全体の 90% 程度を占めています。

3 レプトスピラ症に感染しないために

- (1) 皮膚に傷がある場合は、河川での遊泳を控える。
 - (2) 河川や滝などの生水はそのまま飲まない。
 - (3) 河川や土壌に入る時は肌を露出しない
 - (4) 捕獲したネズミなど野生動物との素手での接触を避け、噛まれないように注意する。
 - (5) 農作業など野外活動をする際は、長靴や手袋を使用し、土や水との直接的な接触を避ける。
 - (6) 家畜（牛、豚など）やペット（犬、猫など）の尿に触れた場合は、しっかり手洗いを行う。
- といった予防対策を心がけることが重要です。

また、レジャーなどの野外活動（河川での遊泳やカヌーなど）をした後、3～14 日以内に突如の頭痛、発熱、筋肉痛の症状がでたら、すぐに医療機関を受診し、その野外での活動状況を医師に伝えることがレプトスピラ症診断の重要なポイントになります。

4 参考

- 沖縄県感染症情報センター「感染症発生動向調査 週報・月報（速報）」
「全数把握疾患（1～5 類）」に、レプトスピラ症の情報を掲載しています。

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/iryokenko/shippeikansensho/1005861/1006484.html>

- 沖縄県衛生環境研究所「レプトスピラ症にご注意ください！」

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/iryokenko/shippeikansensho/1005861/1018592/1006289.html>

- 国立感染症研究所「レプトスピラ症とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/531-leptospirosis.html>